

える関係であることが必要です。それには、まず大人の私達の意識をしっかりと変えていくことが重要です。

授業では子どもたちに「女の子だから男の子だからではなく権利を持った一人の人として人生を選んで幸せになっていいんだよ」というメッセージを伝えています。子どもたちから、(ホッとした)、(自分を大切にしたい)等の感想をもらいます。

暴力を伴ったコミュニケーション方法

「誰かに嫌なことをされたり、言われたりしたらどんな気持ちになる？」

「つらい気持ち」

「でも、泣いたらダメ、強くなれって言われたらどうする？」

子どもたちとの授業のやり取りの一部です。いろいろな意見が出ます。がまんする、やり返す、違う人に八つ当たりする、など。

もちろん、やめると言う、相談する、逃げると言う答えもあがります。でもその意見を聞いて「絶対相談なんかだれにもせえへん」とつぶやく子もいます。

悲しい、怖い、みじめ、つらい、といった感情には、しっかり分かち合ってくれる、寄り添ってくれる存在がいることが大切です。そうしてもらうことで自分の気持ちと向き合い、コントロールでき、表に出すと選んだ場合は(話し合う)ということもできるでしょう。

けれど受け止めてもらえなかったり、泣くな!しっかりしろ! やりかえせ!などのメッセージを受けた場合、気持ちは行き場のないまま怒りに変わり、自分を傷つけたり、誰かを傷つけてしまう暴力になってしまいます。そして誰かを傷つけるとき、自分より強い人は選ばずに自分より弱い人、やさしい人、やり返してこない人を選んでいきます。友達であったり、兄弟であったり、親であったり、見知らぬ人をネットなどで傷つけることも。そして傷つける相手に恋人を選ぶことをデートDVといいます。

想いあって励ましあって支えあってという経験もできる、たくさんのが学べる恋愛というもの、暴力を伴ったコミュニケーションで壊れていってしまうことは大変つらいことです。被害者の人生に大きな深い傷を残し命にかかわる



場合もあります。

大人ができること

私達大人は子どもたちが気持ちを言ってくれた時、一生懸命聴くということが出来ます。何気ない話、うれしい話、腹が立った話、失敗した話。気持ちを否定しないで聴くことで、大人も子どもも心をつかち合う練習ができます。

暴力は人の心のエネルギーをこっそりと奪い去っていきます。抵抗する力をどんどんそがれてしまうので、いやと言えなくなるのは当たり前のことです。

いや、やめて、と言えない人が悪いのではありません。

困っている、つらい思いをしている気持ちを聴いたときは「あなたが悪いんじゃないよ」と伝えてください。

暴力を伴わないコミュニケーション方法を使っていけるようになることがデートDVを予防することにつながります。そしてあらゆる暴力の被害を防ぐことにもつながっていると思っています。

枚方市の相談窓口を載せています。今、パートナーや恋人の暴力に苦しんでおられる方がいらっしゃいましたら、逃げていいです、あきらめずに相談してください。

相談窓口

枚方市配偶者暴力相談支援センター
ひらかたDV相談室

相談時間：平日9時～17時30分
(土日祝日・年末年始を除く)

電話番号：050-7102-3232